

国際物流の取組について

令和3年3月12日(金)

北陸信越運輸局交通政策部

目的

過年度業務で未確認のロシア極東と欧州を直接結ぶブロックトレイン（1編成借上げ列車）におけるシベリア鉄道利用の「優位性」と「課題」を調査、検証することで、日欧間を結ぶ輸送手段として海上輸送、航空輸送に続き第3の輸送手段の「選択肢」として確立し、日露間の経済協力の関係強化に貢献する。

主な輸送ルート

- ・日本の各港 → ウラジオストク（海上輸送）
- ・ウラジオストク → ブレスト（ブロックトレインによる鉄道輸送）
- ・ブレスト → 欧州各地（鉄道orトラック輸送）

コンテナ数

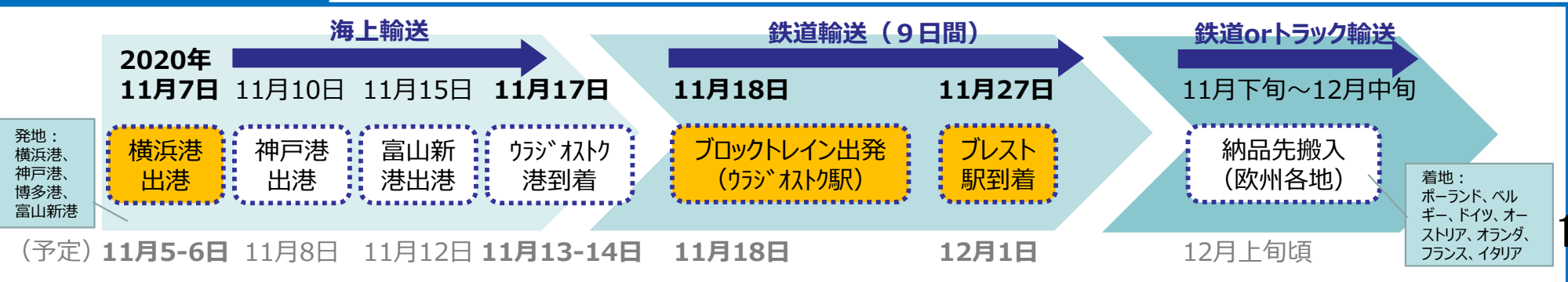
計34本の日本発コンテナを当該ブロックトレインにて輸送した。
40ftコンテナ 28本、20ftコンテナ 6本
合計 34本（うち2本は一般貨物）

検証項目

1. 輸送コスト
2. リードタイム
3. 輸送に係る手続き関連
4. 振動、温湿度などの輸送環境品質
5. 貨物の位置情報確認

輸送日程

※ロシア鉄道ロジスティクス（RZD Logistics）社提供情報により作成



【参考】モスクワ以西の接続
ロシアー欧州方面間の輸送の際、ブレスト（ベラルーシ）/マワシエビチエ（ポーランド）にて線路幅が変更となるため積替えが生じる。

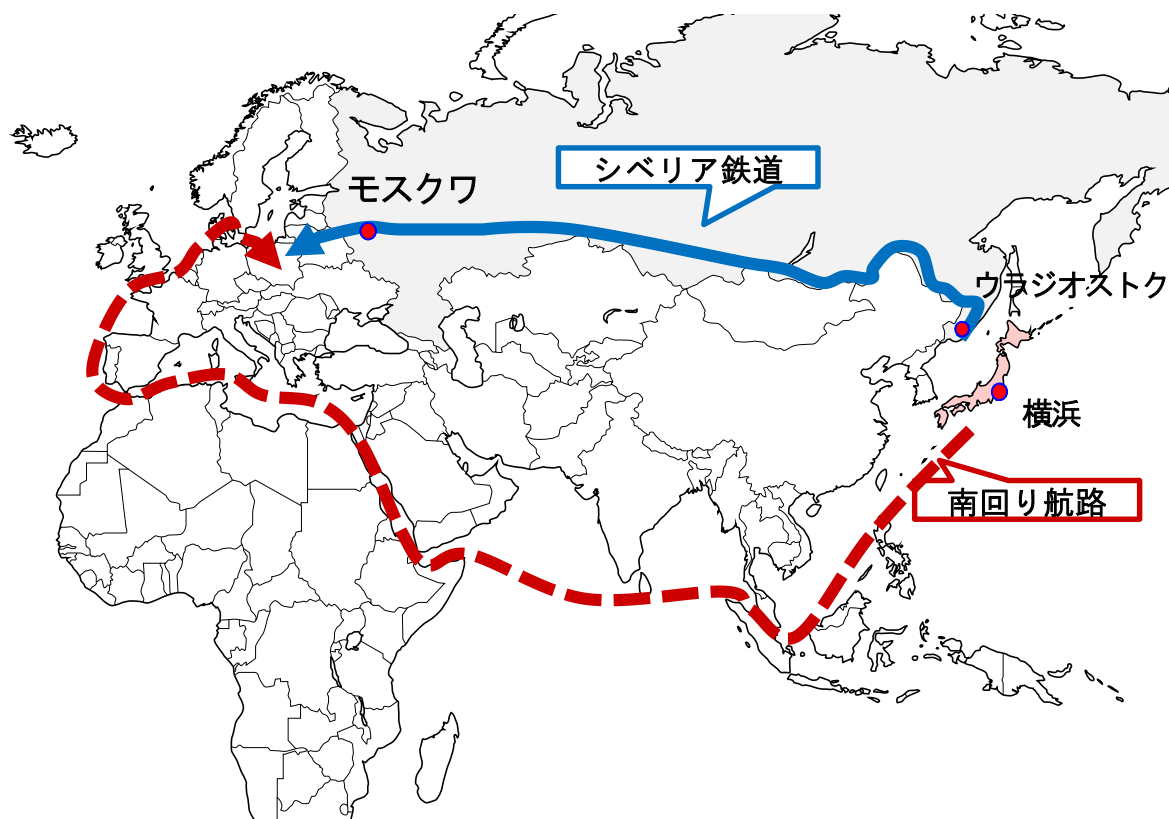
- 1970～80年代にかけて、シベリア鉄道は日本から欧州等に向けたトランジット貨物の輸送に活発に利用された。
- 1991年のソ連崩壊を経て輸送量は激減。しかし、輸送日数等の面で一定のメリットが存在。
- 日欧EPA締結も踏まえ、我が国のグローバルサプライチェーン深化への取組のひとつとして、ロシア鉄道と協力し、海上輸送、航空輸送に続く第3の輸送手段の選択肢としてのシベリア鉄道の利用促進に向けて取組を実施。

荷主サイドからみたシベリア鉄道利用に係る課題

- コスト （航空輸送より安いが海上輸送より割高）
- 定時性 （輸送日数の変動が大きい）
- 輸送品質 （振動、衝撃により損傷が発生）
- 手続きの煩雑さ、不明確さ （通関等） 等



- 過去の情報が更新されないまま利用を断念している荷主企業等も多い状況



国土交通省の取組

■ 物流事業者、荷主企業の意向、課題の把握

- ✓ 物流事業者、荷主企業等へのアンケート、ヒアリングにより、意向や課題を把握（経産省等と連携）
- ✓ 2019年7月に物流事業者等と官民協議会を設置

■ シベリア鉄道による貨物輸送パイロット事業

- ✓ 2018年に日露間、2019年・2020年には日欧間の輸送を実施
- ✓ 結果について荷主企業等に説明会を開催

■ 課題解決・改善に向けたロシア側への働きかけ

- ✓ 日露運輸作業部会 次官級会合
 - 2012年から開催。2020年12月に第7回開催
- ✓ 2019年5月に日露政府間での協力覚書の締結
 - 国交省、日本トランスシベリヤ複合輸送業者協会(TSIOAJ)、ロシア運輸省、ロシア鉄道の4者で協力覚書を締結
 - 覚書に基づく議論を推進中



日露運輸作業部会 第7回次官級会合（2020.12）



国交省、TSIOAJ、露MOT、ロシア鉄道の4者で協力覚書締結（2019.5）

新型コロナの影響によるサプライチェーンの混乱を教訓に、サプライチェーンの強靱化を図るため、中国に集中していた生産拠点のASEAN等への多元化に関する議論が加速。この基盤として、輸送の複線化・効率化等を通じて柔軟かつ強靱な物流を構築する。

概要

新型コロナを踏まえたサプライチェーンの強靱化のため、ASEAN等への生産拠点の多元化が進む中、これを支える物流の構築に資する実証輸送を実施し、輸送方法の有効性や事業化に向けた課題を確認するとともに、その結果を広く公開して荷主・物流事業者の検討に役立てる。

事業案

輸送の複線化・効率化等に係る実証輸送を実施

実証例①

タイ、ミャンマー間のトラック・鉄道複合輸送

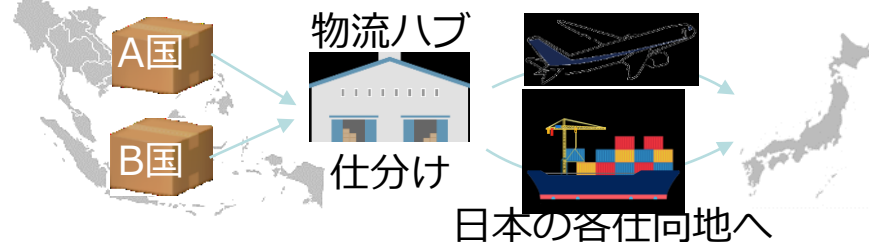


複線化

効率化

実証例③

ASEAN物流ハブでの貨物の集約、仕分け

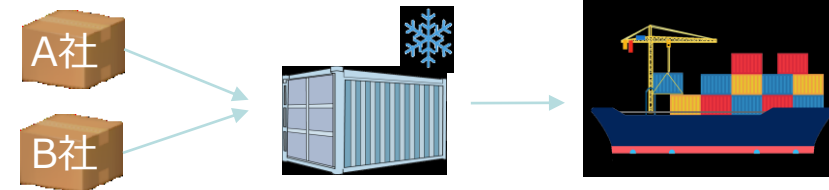


複線化

効率化

実証例②

タイ、ベトナム間の海上保冷コンテナによる共同輸送

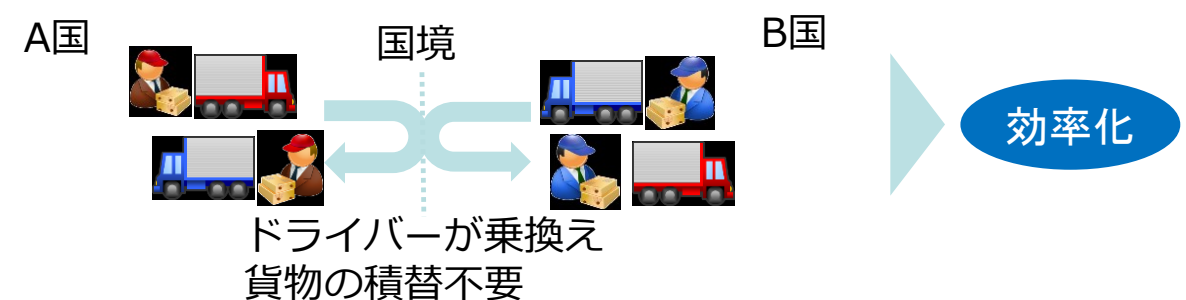


複線化

効率化

実証例④

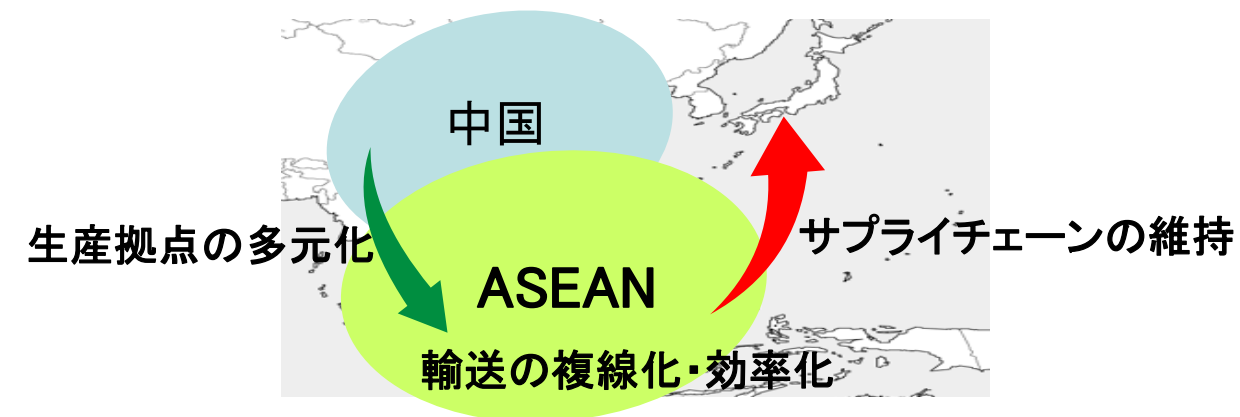
タイ、ラオス、ベトナム間の相互通行車両による陸上一貫輸送



効率化

期待効果

- 輸送の複線化・効率化により、生産拠点の多元化に対応し、強靱なサプライチェーンを下支え
- 感染症の拡大や自然災害等の非常事態における、代替輸送ルートを活用によるサプライチェーンの維持



我が国製造業の越境サプライチェーンの構築、物流事業者の海外事業展開ニーズに対応し、我が国の国際物流システムのシームレス化・更なる海外展開に向けた国際標準化を戦略的に推進することにより、アジアを中心とした質の高い物流システムの構築を図る。

シームレスな国際物流システムの構築

施策の概要

経済依存関係が緊密化する日中韓においては、日中韓物流大臣会合の枠組みに基づき、三国間の円滑な物流の実現等に向けた取組を実施。令和2年6月には、新型コロナウイルスによる国際物流への影響を踏まえた大臣会合特別セッションを開催し、非常事態においても円滑な物流を維持するための協力枠組みについて合意。



第5回会合（平成26年8月、横浜）

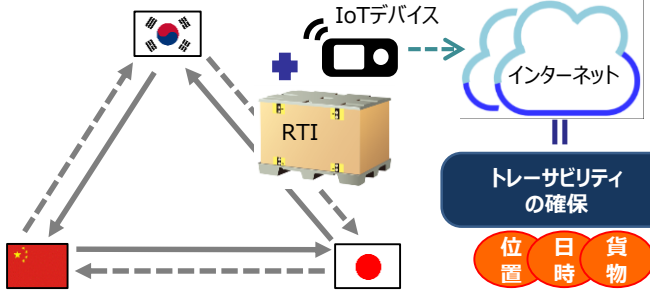
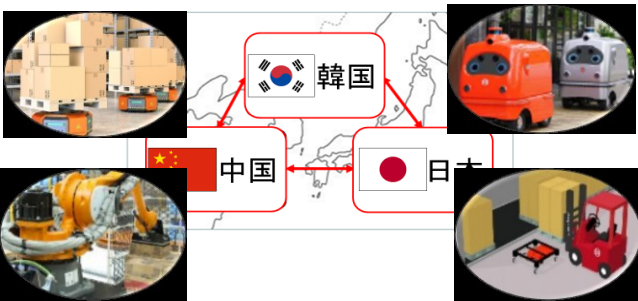


特別セッション（令和2年6月、テレビ会議）



令和3年度の取組

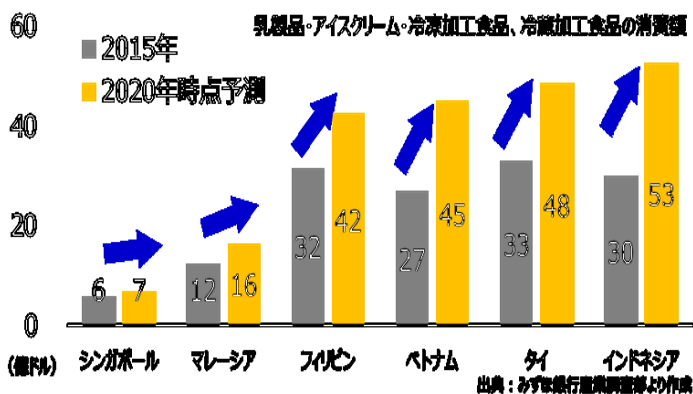
- ・ 非接触・非対面型物流等に関する専門家会合の設置
- ・ 効率的な物流を確保するため、デジタル技術を活用した実証事業を実施



物流システムの国際標準化による海外展開の推進

施策の概要

コールドチェーン物流の需要が拡大するASEANにおいて、日本の高品質なコールドチェーン物流サービスを国際標準等として普及。サービス品質を可視化することにより、市場の健全な発達・高品質サービスへの需要拡大を促進し、日本企業の進出を支援。



コールドチェーン物流関係規格

小口保冷配送サービス (BtoC)

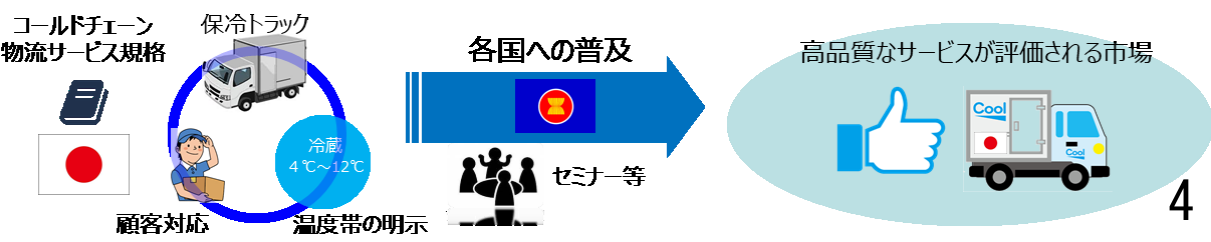
ISO 23412
令和2年5月発行

コールドチェーン物流サービス (BtoB)

JSA-S1004
令和2年6月発行

令和3年度の取組

- ・ 令和2年度に策定するASEANにおける規格の普及戦略に基づき、国別のアクションプランを策定
- ・ ASEANの1カ国に対して、セミナーの開催等、官民連携による働きかけを実施



ASEAN各国との間で政府間対話や官民双方が参加するワークショップを開催し、相手国・地域における物流に関する制度の改善や、我が国物流サービス・機器導入に関するプロモーション等、我が国物流システムの海外展開の環境整備を図る。

令和元年度実績



タイ



R1.10

出席者

【日本側】国土交通省、農林水産省、環境省、経済産業省、在タイ日本大使館、JETRO、JICA、JOIN、(一社)日本物流団体連合会、(一財)日本海事協会、物流事業者 等
【タイ側】運輸省、関係省庁、学識者、物流関連団体、荷主企業団体、物流事業者、商社 等

政策対話の主な議題

- ✓ 両国の物流施策の取組
- ✓ タイにおける物流課題
- ✓ コールドチェーン物流の取組
- ✓ グリーン物流の取組

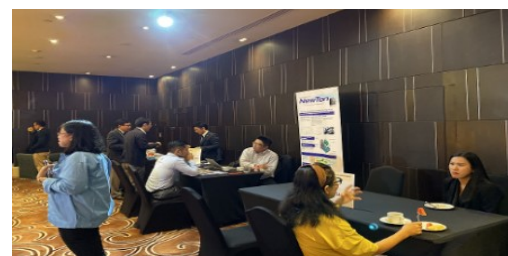


ワークショップの主な議題

- ✓ コールドチェーン物流を支える物流機器や技術等の紹介
- ✓ コールドチェーン物流の構築に向けた支援策の紹介
- ✓ 先進的なコールドチェーン物流サービスの紹介
- ✓ コールドチェーン物流における衛生管理の重要性
- ✓ コールドチェーン物流サービスの国際標準化の重要性

商談会

ワークショップに併せて日系物流機器メーカー及び物流事業者等による商談会を開催し、ビジネスマッチングの機会を創出



ミャンマー



R2.1

出席者

【日本側】国土交通省、農林水産省、環境省、在ミャンマー日本大使館、学識者、JETRO、JICA、JOIN、(一財)日本海事協会、物流事業者 等
【ミャンマー側】運輸・通信省、関係省庁、物流事業者 等

政策対話の主な議題

- ✓ 両国の物流施策の取組
- ✓ ミャンマーにおける物流課題

ワークショップの主な議題

- ✓ コールドチェーン物流の重要性
- ✓ コールドチェーン物流を支える物流機器や技術等の紹介
- ✓ ミャンマーにおけるコールドチェーン物流の現状
- ✓ コールドチェーン物流の構築に向けた支援策の紹介
- ✓ コールドチェーン物流サービスの国際標準化の重要性
- ✓ フードバリューチェーン構築におけるコールドチェーン物流の重要性



令和2年度の計画

インドネシアとの間で開催に向けて調整中

- 我が国物流サービスの導入に向けて、現地で実証実験を行い、官民一体となって事業化に向けた課題の特定と解決を図ることを通じてビジネスモデルの確立を行うパイロット事業を戦略的に展開。
- パイロット事業によって明らかになった課題については、政策対話における相手国への要請やワークショップにおける我が国物流サービス導入に関するプロモーション等により解決を図る。

【平成29年度】

タイにおける小口保冷配送サービスの展開に関する実証

① 調査対象エリア

- ✓ タイ北部・東北部・東部の12エリア

② 実証運行ルート

- ✓ タイ北部チェンマイや南部ラヨーンから首都バンコクへの配送

③ 対象商品

- ✓ チェンマイより野菜・果物
- ✓ ラヨーンより鮮魚

④ 実証結果

鮮度維持



小口保冷

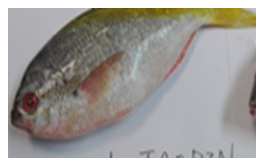
一部腐敗



常温



小口保冷



氷詰

見た目の変化はなし。
氷詰より保冷輸送のほうが梱包材料・送料において**低コスト**



実証運行に当たっては、我が国の小口保冷配送サービスを基にした**世界初の規格であるPAS1018に規定される要求事項を参照しながら検証ポイントを設定。**

【令和元年度】

ベトナムにおけるコールドチェーン物流に関する実証

① 調査対象エリア

- ✓ 中部最大の都市ダナン、首都ハノイ、商業都市ホーチミンの3都市

② 実証運行ルート

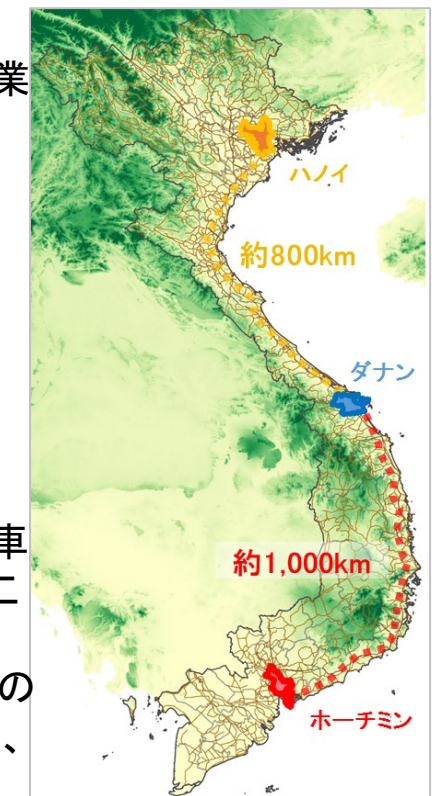
- ✓ ダナン市の水産加工事業者からハノイ、ホーチミンのホテルや小売店等

③ 対象商品

- ✓ 冷凍水産品

④ 実証結果(課題)

- ✓ ホーチミン市内の交通規制により、大型車両が通行できず、バイク便に切り替えたことにより、輸送時間が延びた。
- ✓ ダナン市の水産加工事業者の冷凍倉庫の温度変化により商品に霜が付着しており、納入先の品質基準を満たさなかった。



[入口カバーのない冷凍倉庫]

